【サービス業】
○業界は整備士不足が慢性的である。大型ディーラーの組合員いれば家庭内事業者もある中、大型ディーラーでは人手不足の声がある。一昔は自動車整備の専門学校等を卒業した生徒の採用が主流であったが、それだけでは必要な人員を確保しきれないため、最近では普通高校卒業生を採用し、企業が資格を取らせることに方針を転換している。

【建設業】
○ライフラインを維持する事業であるため、社会にとって必要な業界であるが、人材の新規採用が継続しない。高校卒業で雇用しても1年以内にやめてしまい、そのため中途採用が多いのが現状である。
○現在、配置技術者不足により仕事を取りたくても取れない状況にある。組合としては、発注側に対し配置技術者配置の要件緩和措置等をお願いしていく予定である。
○今年は4月～6月までほとんど仕事が無い状況であった。仕事発注は年間を通じて平準化できるような配慮をお願いしたい。
○人手不足を慢性的に実感している。そのため人材確保に向けた事業を行政の協力を得ながら実施しており、高校生を対象にPR事業を展開している。しかし、人材育成には経費と時間を要することから難しい問題である。また、労務管理が厳しくなってきており、労働時間や日数だけでなく、保険等の加入についても条件とすることが当たり前となっている。特に働き方改革に際し、建設現場でも週休2日制の導入が進められており、工事の受注条件でも設定されていることから今年度から多くの企業でスタートしている。

［横手会場］

【トラック】
○他の産業と比較し、運輸業に関する補助金等の支援メニューが少ないと感じている。特にドライバーの確保は深刻な状況で、若い人材の長距離ドライバーなどは募集しても応募がない状態。そのような中、同業者間での人材の奪い合いが行われているような話もあり、業界の弱体化も懸念する。

【骨材】
○骨材は生コンクリートの原材料であるため、生コンクリートの需要が上がらないと骨材業界も元気が出ない。土地改良工事で使用される砂・砂利の需要は高く、この先4～5年は継続する見込であるが、供給する砂・砂利を採取できる場所が少なくなっていることが大きな問題である。
　従業員の雇用状況は若い人の雇用が少ないため、高齢化が進んでおり、70才代でも元気があれば現役で働いてもらっている。

［由利本荘会場］

TOPICS 2 秋建協同組合理事長を訪問
～建設業の現状をお聞きしました～

　秋建協同組合（加藤憲成理事長）は、昭和29年9月に秋鉄工業協同組合として設立し、その後昭和39年4月に現名称に変更しました。現在の組合員は建設業者12社で、生コンクリートの購買事業を主に組合活動を行っています。
　そこで、加藤理事長に現在の建設業の現状についてお聞きしました。

　今の時期は、豪雨災害の復旧工事に加え、県発注工事が重なっており、建設業界の技術者不足で対応できないことも多く、発注工事の入札は不落の物件が珍しくありません。
　働き方改革への対応は急務となっていますが、人手不足が続く中での経費、時間、人員の負担は避けられません。特に天候に左右される工事現場では雨や酷暑の影響で進捗の遅れによる工期に支障をきたさぬよう細心の注意を払っています。

　人材の確保の面では、熟練職人とのネットワークを築いていますが、高齢化が進んでいます。これに代わる外国人の雇用が考えられますが、建設工事については多様な作業が伴うことから外国人技能実習制度は馴染まないと考えています。ただ、外国人技術者の活用には興味を持っています。
　建設業界は公共工事の縮小によって、身軽な経営体制にシフトしました。土木工事の技術者集団として技術者の確保に努めていきたいと考えております。

［秋建協同組合加藤理事長］